



そして新たな挑戦へ  
**創業70周年記念式典開催**

2016年5月20日、創業70周年の記念式典を  
 広島市南区のホテルで開きました。  
 社員ら約600人が会社の節目を祝いました。  
 小田秀樹社長は「新たな挑戦を引き続き行い、  
 80年そして100年を迎えたい」とあいさつし、  
 「信頼を得る復建であり続けるため、  
 会社一丸で努力する」と誓いました。



復興の精神で未来へ  
 未来社会創造企業の歩みと挑戦



**復建調査設計株式会社** 〒732-0052 広島市東区光町二丁目10番11号  
 TEL (082) 506-1811 FAX (082) 506-1890 <http://www.fukken.co.jp/>

- ◎事業所一覧
- |               |   |        |                                     |
|---------------|---|--------|-------------------------------------|
| [ 関東・東北・北海道 ] | 東京支社、東北支店、気仙沼事務所、札幌事務所、横浜事務所  | [ 四国 ] | 四国支社、松山支店、徳島支店、高知支店、宇和島営業所          |
| [ 近畿・中部 ]     | 大阪支社、名古屋支店、三重事務所、滋賀事務所、神戸事務所、和歌山営業所   | [ 九州 ] | 九州支社、長崎支店、佐世保事務所、諫早営業所、対馬営業所、大分事務所、 |
| [ 中国 ]        | 岡山支社、広島支社、福山支店、備北事務所、呉営業所、東広島営業所、山口支社、下関支店、岩国営業所、周南営業所、防府営業所、松江支社、鳥取事務所、倉吉事務所、浜田事務所、安来営業所、雲南営業所、大田営業所 | [ 海外 ] | 熊本事務所、鹿児島事務所、宮崎事務所、沖縄事務所<br>ヤンゴン事務所 |

復建調査設計創業70周年記念誌

## 復興の精神を受け継ぎ、 豊かな未来社会を創造していく

1946年、戦災からの復興を旗印に掲げ設立した当社は2016年5月、おかげさまで70周年を迎えました。創業以来、「進取・協力・信頼」を社是に、ひたむきに取り組んできたのが「安心・安全且つ強靱な国土形成」の実現です。日本の社会資本整備の一翼を担おうと、道路や河川などの基盤整備、地盤環境、交通計画をはじめ、多彩な領域に活動の場を広げてきました。1960年には株式会社化し、その後は西日本最大級の建設コンサルタントに成長。近年はとりわけ防災分野で、東日本大震災や広島土砂災害をはじめとした自然災害への即時対応を行うなど、力を入れてきました。2014年から、災害に強い次世代の都市開発を目指すため、東京大学と共同で「復興デザイン研究体」を開設、研究を進めています。

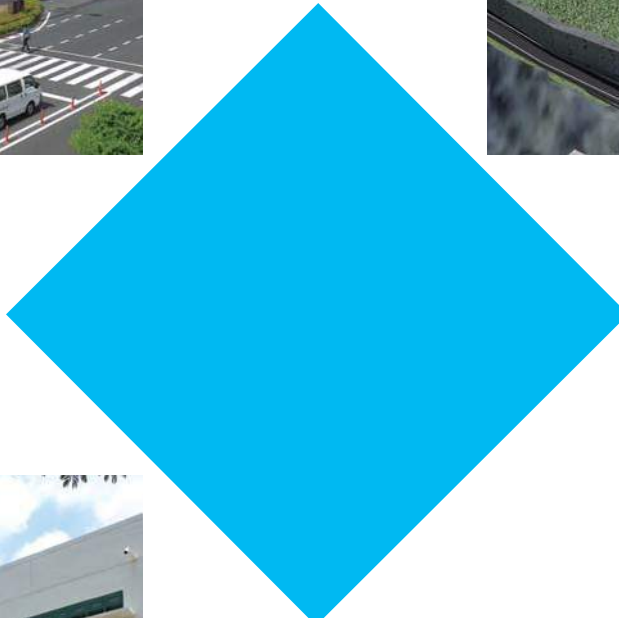
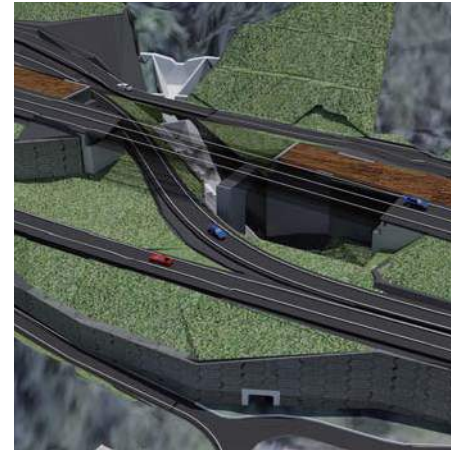
今後、80年そして100年へ向け当社が取り組む事業の新しい柱は三つあります。

一つめは、単なる設計や調査にとらわれない、企画から設計、維持・管理までをトータルにマネジメントできる体制のさらなる強化です。老朽化が進む社会資本のメンテナンスニーズに的確に応えていきます。二つめは、人口減社会における人手不足への対応を図るための生産性向上。設計や建設に関する情報や技術に関する情報、それらの管理情報をコンピューターシステムで三次元モデル化する「コンストラクション・インフォメーション・マネジメント(CIM)」を推進します。そして三つめが海外への技術協力です。70年間培ってきた地域づくり、街づくり、環境改善のノウハウをミャンマーやベトナムをはじめとした国々に提供することで発展に寄与していきたいと考えています。

すべては、豊かな国土形成のために。「未来社会創造企業」としてさらなる成長と飛躍を目指してまいります。ぜひご期待ください。



代表取締役社長  
小田 秀樹



## 会社の歩み

- 昭和21年 5月 社団法人復興建設技術協会設立
- 12月 社団法人復興建設技術協会中国四国支部設立、事務所を広島市霞町県庁2号館に開設、測量業務を開始
- 昭和26年 5月 地質業務を開始、職員35名
- 昭和31年 4月 支部事務所を広島市基町県庁構内(自治会館)に移転
- 5月 支部長に松村恭二就任
- 昭和32年 5月 設計業務を開始、職員67名
- 昭和35年 4月 株式会社中国四国復建事務所を設立 5月1日より営業開始、資本金200万円、職員115名、代表取締役社長に松村恭二就任
- 昭和41年12月 社名を「復建調査設計株式会社」に変更登記
- 昭和53年 6月 本社を広島市東区光町二丁目10番地11に移転登記
- 昭和55年 7月 代表取締役社長に本多勇就任
- 昭和57年 7月 資本金2.5億円に増資、職員583名
- 平成 2年 7月 代表取締役社長に羽原俊行就任
- 平成 8年 5月 創業50周年
- 7月 資本金3億円に増資、職員753名
- 平成10年 2月 ISO9001取得
- 平成11年 3月 ISO14001取得
- 平成14年 4月 第6次中期経営計画策定
- 5月 社内ベンチャー制度の導入
- 平成16年 7月 代表取締役社長に近藤英樹就任、執行役員制度の導入
- 平成17年 5月 第7次中期経営計画策定 情報セキュリティ・ポリシー策定
- 平成18年 3月 アジア航測(株)との技術提携の締結
- 平成19年 2月 ベトナムに合弁会社設立
- 5月 地上型レーザー計測機器導入
- 平成20年 4月 第8次中期経営計画策定
- 10月 (株)日本構造橋梁研究所(JBSI)をグループ会社化
- 平成21年 7月 代表取締役社長に福成孝三就任
- 9月 第一復建(株)をグループ会社化
- 平成22年 5月 新基幹システム運用開始
- 8月 復建6社において業務提携を積極的に行うことで合意
- 8月 ナローマルチビーム測深器導入
- 平成23年 5月 第9次中期経営計画策定
- 6月 アジア航測(株)との資本業務提携の締結
- 平成24年 7月 代表取締役社長に小田秀樹就任
- 8月 ミャンマー工学会、ヤンゴン工科大学、広島大学と共同でヤンゴンにおいて交通セミナー開催
- 平成25年12月 CIM推進室新設
- 平成26年 4月 プライバシーマーク取得
- 5月 ミャンマー連邦共和国に現地法人設立
- 5月 第10次中期経営計画策定
- 6月 3Dプリンター導入
- 7月 東京大学内にアジア航測と共同で社会連携講座「復興デザイン研究体」を開設
- 平成27年 3月 橋梁点検車BT-200導入
- 6月 (株)大設をグループ会社化
- 12月 宮古市スマートコミュニティ太陽光発電所建設事業竣工式挙行政
- 平成28年 5月 広島大学と全学を対象とした包括的研究協力協定締結
- 5月 創業70周年記念講演・式典 祝賀会挙行政





## 日本の、世界の、「これまで」と 「これから」を支え続けていく

私たちは戦後の国土再建から始まり、地質調査、測量、建設コンサルタントの3分野を中心に技術を蓄積、向上。自然との調和も大切にしながら、国づくりの一端を担ってきました。社会基盤整備をはじめ、防災、環境、都市開発、交通計画など、活躍領域は日本や世界のさまざまな分野に広がっています。

### INTRODUCTION OF OUR SERVICES

- 1 道路、橋、トンネル設計に必要な地盤情報取得、基礎地盤設計を行います。
- 2 過去の津波が、どこまで遡って来たか津波痕跡調査を行います。
- 3 上水道や下水道、工業用水施設の調査、計画、設計を行います。
- 4 河川水を水道、農業用水等へ利用するため、堰や水門等の設計を行います。
- 5 土地が汚れていないか土壌汚染調査を行います。
- 6 洪水氾濫から生命・財産を守るため、河道計画や堤防整備等の設計を行います。
- 7 工事に必要な土地の境界やその面積を計測、また、補償する家屋や工作物等の算定を行います。
- 8 埋立地、護岸の設計に必要な地盤情報取得、基礎地盤設計を行います。
- 9 森・川・海において、自然環境を保全・創出し、貴重な生き物の生息環境を守るための調査や対策の立案を行います。
- 10 土砂災害から人命や社会資本を守るため、危険な斜面・渓流の調査を行い、防災施設の設計を行います。

- 11 トンネルの設計を行います。
- 12 土砂災害の危険があるところを調査し、土砂災害(特別)警戒区域を設定します。
- 13 安全・安心のため、わかりやすい標識の設置や歩道や共同溝の計画・設計を行います。
- 14 橋や道路構造物の計画、設計や既設橋の補強設計を行います。
- 15 環境、自然に配慮し、経済性、安全性を考慮した使い勝手の良い道路の計画を行います。
- 16 都市や地域のまちづくりを総合的に計画します。
- 17 超小型モビリティなどの新たな交通手段について検討を行います。
- 18 渋滞対策や交通事故対策を検討します。
- 19 住民主体のまちづくりをサポートします。
- 20 道路・川・港等の整備に伴い自然環境や生活環境が悪化しないよう、調査や解析、対策の立案を行います。

- 21 港の利用・保全ならびに隣接地域の保全に関する計画を行います。
- 22 港湾・漁港における岸壁、防波堤、棧橋等の設計を行います。
- 23 高潮・津波等から陸域を守るため、堤防・護岸、消波工、養浜等の設計を行います。
- 24 太陽光、風力等の再生可能エネルギーが身近にあふれる社会となるよう、調査や計画策定を行います。
- 25 河川の保全計画の基礎データ、流れる量および方向等を把握するために流量観測を行います。
- 26 河川空間における多様な生態系を保全するため、水辺の環境整備を行います。
- 27 陸・海・空からの三次元計測機器で詳細な地形図の作成を行います。
- 28 緊急時や災害時に小型無人航空機UAVを併用して、迅速に調査・測量を行います。
- 29 公共交通や交通結節点の計画を行います。
- 30 団地開発や公園の設計を行います。

- 31 地震、津波、土砂災害、洪水、高潮等のハザードマップの作成やワークショップを行います。
- 32 限りある資源が循環し、ごみ処理が適切に行われるよう、処理施設の計画策定や設計を行います。
- 33 橋やトンネルなどの土木構造物の点検診断、補修設計、維持管理計画を行います。
- 34 地震、津波、高潮等のシミュレーション技術を活用して被災予測や対策検討を行います。
- 35 堆積物の調査や沿岸施設等の設計に必要な海底の地形図(2D、3D)を作成します。
- 36 鉄道高架橋や鉄道関連施設の設計を行います。
- 37 地下鉄駅舎や地下RC構造物の設計を行います。
- 38 観光客や交通弱者の移動を支援するための計画を立案します。
- 39 社会資本整備による経済効果分析を行います。

# 未来を築くFUKKENの新しい柱

社会の「これから」をもっと豊かにするため、  
 復建調査設計は国内外で新たな事業を始めています。  
 総合建設コンサルタントとして、顧客のニーズを掘り下げ、  
 課題解決のプランを提案し、実践につなげていきます。

FUKKEN  
 70th  
 ANNIVERSARY



## 産学官連携で課題解決

### 社会デザイン創発センター開設

災害による被害をどう防ぐか、エネルギーをどう効率的に活用するか。社会が抱えるさまざまな課題を解決するため、産学官連携のプロジェクトの立ち上げから、具現化までトータルに取り組んでいます。

#### 【主要テーマ】

防災・復興デザイン／スマートコミュニティ・地域エネルギー／エリアマネジメント・アーバンデザインセンター／地域交通・次世代交通システム

- 1 大学生と一緒に復興まちづくりの提案と実践
- 2 建築家や大学等と連携して被災地の新しい学校づくりを支援
- 3 産学官連携による新たなまちづくりの拠点「松山アーバンデザインセンター」を運営
- 4 地元交通事業者と連携した地域公共交通の計画づくりと運行支援
- 5 カーシェアリングなど新たなモビリティの事業化検討
- 6 エリアマネジメントの組織化支援



## ICTによる事業改革

### CIM、i-Constructionを推進

三次元モデル等ICTを活用するコンストラクション・インフォメーション・マネジメント(CIM)の技術を2013年にいち早く導入し、CIM推進室を発足。15年には生産性を向上させるための政府の取り組みi-Constructionも始まり、動きが加速しています。目指すは、ICTを活用した建設業の改革です。三次元データをマネジメントできる人材の育成も重視しています。



## 国際貢献を目指して

### 海外への技術協力に力

戦災からの復興を目指し、創業以来70年間培ってきた地域づくり、街づくり、環境改善のノウハウを生かし、国際貢献に取り組んでいます。それも復建調査設計の大きなテーマです。ミャンマーやベトナムをはじめとした国々に、培った技術を提供することで発展に寄与していきたいと考えています。

#### < 特別寄稿 >

### ミャンマー進出から19年 あの頃の苦闘を振り返って

当社は1997年にミャンマーへ進出。ヤンゴン事務所を開設しました。しかしその頃に起きたタイの通貨危機や、軍事政権下の経済運営などの影響を受け、営業成果はなかなか上がりませんでした。

5、6年を経過した頃、ミャンマー撤退論も出始め、私自身も、にっちもさっちも行かない閉塞感の中でもがいていた時期であったと思います。帰国のたびに事務所撤退の圧力を感じる中で、一人の役員に現状を報告に行った時のことでした。

その役員は、じつと私の報告を聞いた後に、そっと私の目を見て、「元気にやっているんですね。よかった」「日本の国が彼の地で昔どんなことをやったか知っていますか」「まだまだ貧しい人たちが大勢いる中で、儲けようなどと考えて良いから、地元の人たちが喜ぶことをやればそれでいいです」と言ってくれました。

この一言で本当に救われた思いがし、この言葉によって、その後も厳しい状況の中で、事務所の運営を続けてこられたのだと思います。

筋の一本通った考え方は、柔軟な変化への対応とともに、時代によらず必要なことだとつくづく考えさせられました。時代の大きな変化を経験する現在のミャンマーにおいても、今後とも、この言葉を胸に、現地職員とともに、よりいっそう頑張りたいと思います。

ヤンゴン事務所長 山田 義満



ヤンゴン事務所



現地スタッフによる海上ボーリング



現地スタッフとのレクリエーション

# 技術の力で、安心と安全を形にしていく

相次ぐ自然災害から社会をどう守るか。都市交通をどう向上させるか。  
 インフラ設備の老朽化にどう対応するか。  
 これからの社会に何より必要な「安心と安全」を確かなものにするために、  
 復建調査設計はさまざまな活動を展開しています。

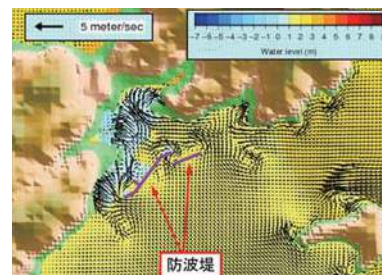
FUKKEN  
70th  
ANNIVERSARY



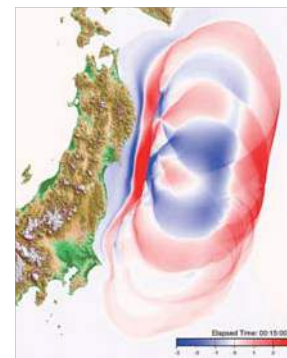
## 被害を最小限に抑える

### 津波シミュレーション技術

地震時に発生する津波について、その水位や流速を解析し、津波の最高水位や最大流速、到達範囲などを予測。浸水範囲と対策による低減効果の評価、海岸構造物に作用する力の推定などに役立ちます。シミュレーション結果のわかりやすい図化技術にも取り組んでいます。



佐賀関漁港を対象としたL2津波の予測

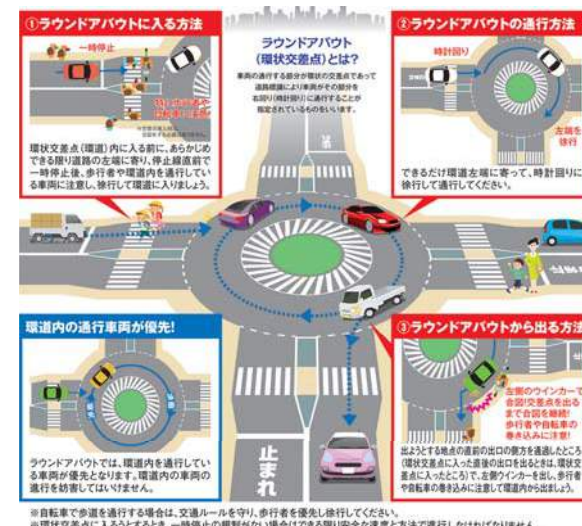


東日本大震災の津波の再現

## 中国地方初の試み

### ラウンドアバウト（環状交差点）

信号のないドーナツ型の交差点「ラウンドアバウト」は、安全な都市交通を実現するための新しい交差点。進入時に一時停止の必要がなく、合流と分岐を繰り返すことでより安全に進行方向を変えられる特長があります。復建調査設計では、岡山県浅口市において、中国地方初のラウンドアバウトの設計を実施。実用化に向けて研究は着々と進んでいます。



## インフラの補修に効果

### 橋梁点検車を導入

老朽化する橋梁のメンテナンスの効率化を支援しようと、最新型の橋梁点検車を導入。迅速できめ細やかな対応を行うことで、安心と安全な社会づくりをサポートします。



## 総力を挙げて支援

### 東日本大震災からの復興

東日本大震災が発生し5年が経過。当社では、復建六社で協力し合い、防潮堤の調査設計を皮切りに、道路や公園、高台移転などのハード事業のほか、コミュニティの再構築や交流・定住人口対策、産業振興等のソフト事業へ参画するなど、「新しいまちづくり」のための業務に携わっています。「復旧・復興」は、「衣・食・住」の確保を経て、被災者へのメンタルケア、地域の活性化対策など、時の流れにあわせて求められるものが変化していくため、その要望に、いかに迅速に対応できるかが、復興の成功につながります。当社は、さらなるコンサルティング力を発揮しながら、多くの被災地の復興の助けになることを重要な使命と考えています。



工事の進む高台造成 2016.05

## 災害復興をデザイン

### 広島土砂災害の教訓生かす

2014年8月19日夜から20日未明にかけて広島市北部で豪雨があり、広島市安佐北区と安佐南区では、局地的に猛烈な雨が降り続き、安佐北区西部、安佐南区八木・山本・緑井などで、同時多発的に大規模な崩壊・土石流が発生。これにより、多くの尊い人命が奪われ家屋や社会基盤も甚大な被害を受けました。復建調査設計では、国土交通省、広島県、広島市から災害対応要請を受け、被害実態調査を行うとともに、復旧に向けた測量、地質調査、対策工の設計を行いました。また、土木学会・地盤工学会合同調査団、日本応用地質学会調査団に参加し、原因究明のための調査にも貢献しました。当社が設計した対策工を含め、多くの対策工が施工されており、災害復旧は進んできています。復建調査設計では、東京大学との共同研究で、さらなる「安全な暮らし」のための災害復興デザインに向けた取り組みを行っています。

## 私達が設計した対策工



砂防えん堤



のり砕工

## 次世代社員座談会

# 「未来社会創造企業の未来を展望する」

豊かな未来社会を創造するために何ができるか。

創業70周年を記念して、復建調査設計の次世代を担う中堅社員10人が集まり、座談会を行いました。復建という会社の魅力や仕事のやり甲斐は何か、さらなる成長を目指し、どうあるべきか。自由闊達に話し合いました。

高上 真一（保全構造部構造技術課）  
佐藤 啓輔（総合計画部社会基盤計画課）  
松尾 徳子（長崎支店営業課）  
光本 恵美（地盤環境部地盤技術課）  
岩井 綾（四国支社設計課）

大村 拓志（防災部砂防技術課）  
織野 祥徳（空間情報部情報補償課）  
中原 正晴（広島支店営業課）  
前田 潤一（道路・地域整備部開発技術課）  
川上 佐知（経営管理本部社会デザイン開発センター）

コーディネーター：中国新聞社

### 「やりたい」に 挑戦できる会社

—70周年を迎えた今、復建の魅力について、社員の皆さんはどう考えますか。

大村 世代や経験を問わず、社員同士が自由に意見を言える土壌があります。以前、地すべり対策について提案書にまとめたら、先輩たちからアドバイスをいただき、受注につながったことがあります。やる気を後押ししてくれる会社です。



大村 拓志

織野 若手でも「やりたい」と思ったことを発言できる環境で積極的にチャレンジできるのが魅力だと思います。私も、仕事を効率化するためにGIS(地理情報システム)を活用したアプリを開発し、スマートフォンやタ

ブレットで利用できるようにすることがあります。

光本 土質試験室や資材倉庫を持つ建設コンサルタント会社は珍しいと思います。これにより、試料の採取者、試験者、解析者などの連携を可能とし、安全管理も工夫できます。

中原 営業職と技術職の連携が取れているのが強み。顧客の要望に対して、迅速に対応でき、良いプランを提案する力があります。また空間情報や環境など多様な分野の技術を組み合わせて提案できる総合力が違います。

高上 年1回、全社員が本社に集まり、技術発表会を行う機会があり、情報交換ができます。翌日のボウリング大会は毎年の楽しみです。



高上 真一



中原 サッカー部や茶華道部など部活も盛ん。子どもの頃から野球ひと筋だった自分は、復建野球部の監督を務めています。

岩井 「グリーンプロジェクト」での宮島の清掃活動やコウノトリの保護、防災教室の開催など、社会貢献活動に積極的なもの

良い点だと思います。

松尾 総合建設コンサルタントとして、橋梁や道路などのインフラ整備や街づくりなどの都市開発をはじめ、スケールの大きな仕事に取り組めること。何よりもそこが大きな魅力ではないでしょうか。

—課題や改善点がありますか。

高上 誰もが真面目。顧客が求める仕事に対しては満点を出せると思います。

前田 顧客の言いなりではなく、顧客を誘導するリーダーシップも必要かもしれませんね。

川上 高齢化、人口減、過

疎化、災害被害など、日本が抱える課題の多くは、地方から発生しているといっても過言ではありません。地域に根ざす復建だからこそ、できる街づくりがあるはずで

大村 業界の中でブランド力のある一方で、一般の人や地域への知名度は決して高くありません。ホームページ

を有効に使って情報発信するなど、認知度を高めていく努力も大切だと思います。

### 「女性活躍企業」 としてのFUKKEN

—建設コンサルタント業界に人手が不足する中で、女性の活躍が期待されています。女性が働く場として、復建はいかがですか。

光本 地盤調査などを担当する私は、よく現場に出かけていますが、「女性だから」と特別扱いされることはありません。復建は、性別に関係なく、誰もがその立場で活躍できる職場です。



光本 恵美

岩井 1年前に産休から職場に復帰したのですが、主人が単身赴任に。仕事と子育ての両立は大変

でしたが、会社や家族の理解やサポートがあって、何とか乗り越えました。しかし子どもがいれば、大変なのは男性社員も女性社員も同じではないでしょうか。

松尾 復建では今後、女性の経営管理職が出てくるなど、女性が活躍する場が広がることは間違いのないと思います。一般職、総合職に限らず、女性がより働きやすい環境づくりが必要になるかもしれませんね。



松尾 徳子

川上 復建は街づくりの会社。より豊かな街を実現するには、複眼的な思考が求められます。男性社員も女性社員もいいところを出し合って、仕事することが何より大切だと思います。

—復建の今後を支える大きな柱となりそうなのが海



外事業です。海外ではどんな仕事に関わっていますか。

**佐藤** タンザニア、中央アジアなどで、インフラ整備に伴う経済分析などを行いました。折衝相手である現地政府の日本人技術者に対する信頼は厚く、日本人技術者への評価の高さを感じました。先人の築いた実績のおかげでしょう。

**前田** 2013年から14年にかけて断続的に4カ月間、ミャンマー南東部の総合開発プロジェクトに携わりました。南東部は貧しい地域で、小学校と給水施設の建設に力を入れました。「教育と水」は社会や生活の根幹とも言える分野。そこを支える仕事に関われたことは、技術者冥利に尽きます。これこそが、建設コンサルタントの在るべき姿だと胸を張れます。

**川上** 海外では技術のことも、マネジメントも、営業も一人で務めなくては。一人

で総合コンサルの仕事を行う覚悟が必要です。大変ではありますが、責任もやり甲斐も大きいですね。



川上 佐知

**前田** 視野が広がるのも、海外事業に携わる良さです。社内では8年前から英会話研修を行い、今では若手がよく参加しています。



前田 潤一

**中原** 近い将来、海外で仕事をする機会ももっと多くなるでしょう。専門分野だ

けでなく、幅広くこなせる能力が必要になりそうです。その場での判断力も求められます。

### 防災・減災のためにできること

一東日本大震災や広島土砂災害など、近年は大規模な自然災害が相次いで発生しています。防災への取り組みは。

**佐藤** 東日本大震災への復興の一環で、東京大学の羽藤英二教授と連携して、陸前高田市で統合中学校を建設するプロジェクトに参加しました。現地に入り、学校関係者、PTA、行政、建築家と話し合いながら、プロジェクトが円滑に進むように支援しました。

**大村** 防災部では広島土砂災害直後に現地調査を行いました。毎年のように大きな災害が起きる中、迅速な判断ができる技術

者を目指しています。

**織野** 広島土砂災害の際には私も溪流調査を行いました。また、がけ崩れなどの災害では、レーザー計測により被害状況を可視化し、防災設備の設計につながります。使命感を持って災害対策に臨んでいます。



織野 祥徳

**佐藤** 陸前高田では、災害で多くの行政関係者の方が亡くなりました。こうした中、復興していくには、専門や立場などにこだわっている余裕はありません。「何とかしたい」との思いで、必死になって取り組みました。



佐藤 啓輔

**大村** 熊本地震の際も、防災部から人員を派遣し、道路の落石を調査。現在対策を検討しています。いざという時にどこまで迅速かつ適切な行動が取れるか。そこが問われます。

**川上** 復建は戦後の復興から始まった歴史を持ち

ます。災害に対して復元力の強い街づくりに取り組んできたノウハウを生かせば、もっと貢献できるはずです。

### そして100周年へ、未来へ

—80周年そして100周年に向けて皆さんの思いやメッセージをお願いします。



岩井 綾

**岩井** 復建では女性社員が増える傾向にありますが、業界全体ではまだ少ないのが現状。でも、これは名前を覚えてもらえるチャンスだったりします。何事も前向きに取り組みたいです。

**光本** 明るく風通しが良いのが復建の社風。何事も楽しみながら仕事できるのが、この会社の魅力



です。みんなで、会社を盛り上げていきたいですね。

**松尾** 会社の歴史を自分たちでつくっていくという気構えを大事にしたいと思っています。事務職として、皆が力を発揮できるようサポートしていきます。

**佐藤** 建設コンサルタントの仕事の面白さや社会的意義をもっとPRする必要があります。「こんなに素晴らしい仕事があるんだ」と若い人たちに伝えていきたいです。

**高上** 例えば橋梁をつくるなど、私たちの仕事は、後

世の社会に残る仕事。いつも襟を正す思いで仕事に取り組みたいですね。

**大村** 復建にはオーナー企業や親会社がなく、みんなでやっという空気があります。社員一人一人が主役になれる会社。そこが何よりいい。

**織野** これまでの成果を引き継ぎつつ、時代の変化に沿った新しい事業にもチャレンジする。そんな企業の一員であり続けたいと思っています。



中原 正晴

**中原** 会社に頼るのではなく、会社が成長するために自分は何ができるのか。それを日々考え、行動していくことが大切です。

**前田** 広島駅前の開発など、街づくりに関われる喜びがこの仕事にはあります。これからは、「緑の下の力持ち」ではなく、時には「緑の外」や「緑の上」にも出て、活躍してもいいのではないのでしょうか。もっと豊かな街をつくるために何ができるか。新しい分野にも挑戦したいです。

**川上** プロ意識を持って仕事する大切さをあらためて実感しています。復建が70年間積み上げてきた実績を生かし、先輩方からのバトンを引き継ぎつつ、新たな付加価値を創造し続ける「リノベーション・カンパニー」を目指したいです。地方に本社のあることを弱みではなく、強みにできる会社であるべきです。

—復建の「これから」を担う皆さんの熱い思いがよくわかりました。ありがとうございました。

# 信頼なくして協力なし 協力なくして進取なし

「進取、協力、信頼」を社是に、社長をはじめ社員が一丸となって、社会資本整備の事業に推進していく。  
復建調査設計は、そのための職場環境の整備にも万全を期しています。

## CIM 研修

全新入社員を対象に入社後1カ月間のCIM研修を実施。三次元CADを操作する技術を習得します。2016年は社外からの受講者も加え25名で実施しました。研修の最後には成果発表会を催し、優秀者には社長賞が贈呈されます。



## 全社技術発表会

技術者、特に若手技術者の技術能力やプレゼンテーション力向上のために、毎年10月に全社技術発表会を実施。発表会においては各技術部門の特色ある業務成果や新たな取り組みの成果などを社内広くPRし、今後の業務執行や営業活動の参考としています。



## ボウリング大会

全社技術発表会の翌日には、社員の福利と親睦ならびに体育向上を目的にボウリング大会を実施。成績上位者や飛び賞には、豪華景品を用意し、和気あいあいと楽しんでいます。また前夜祭では、全社技術発表会の優秀発表者に対する表彰、前年度優勝チームの優勝カップ返還やボウリング体操なども行っています。



## 社内旅行

会社からの補助により毎年社内旅行を実施。毎年とても参加率が高く、親睦を深めています。AKBが得意な若手男性、マッチの物まねが得意な中堅、マイカスタネットを持ち込み踊るベテラン、お尻で割り箸を折る達人、最後はいつも抱腹絶倒の大宴会です。



## クラブ活動

クラブが盛んなことも当社の特徴。野球部、サッカー部、茶華道部があり、多くの社員が所属。活動を通して親睦を深めています。



## Greenプロジェクト

労働組合が主催するプロジェクト。組合員の交流促進及び結束力の強化を主な目的とし、社会への還元活動として、地域で行われる「ボランティア活動」や「地域活性イベント」に参加する組合員に対し、一定の助成を行い、活動を支援するものです。



## Health Promotionプロジェクト

労働組合が健康増進を目的として始めた第1弾の取り組みとして、手軽に肺がんCT検診(胸部CT検診)を受診できる移動CT搭載車を招き、組合員のCT検診費用の助成を行っています。

